

かきかたノート・漢字練習帳

～ 国語力は「読み・書き」から～

「基礎学習練習帳」が「読み・書き・計算」の総合学習のためのメイン教材であることは前に紹介したとおりです。これを“低学力”という名の悪い鬼をやっつける、“学力向上”鬼にたとえらるとするならば、金棒はその、「計算」の力をさらに強化する「計算練習帳」「文章題」です。

この鬼は、何ともう片方の手にも金棒を持っています。「読み・書き」の力を強化する「かきかたノート」「漢字練習帳」です。両手に金棒を持った鬼。強そうですね。さらにこの鬼は長文読解の問題集という家来をしたがえているので、向かうところ敵なしです。

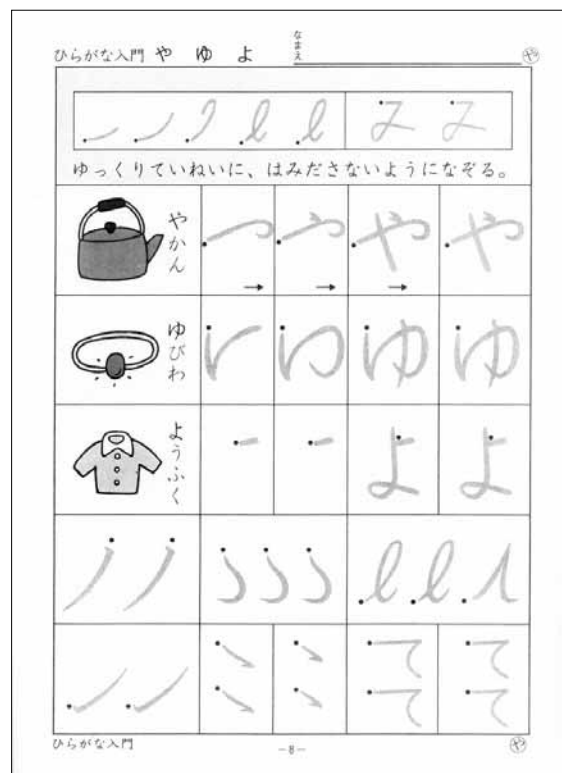
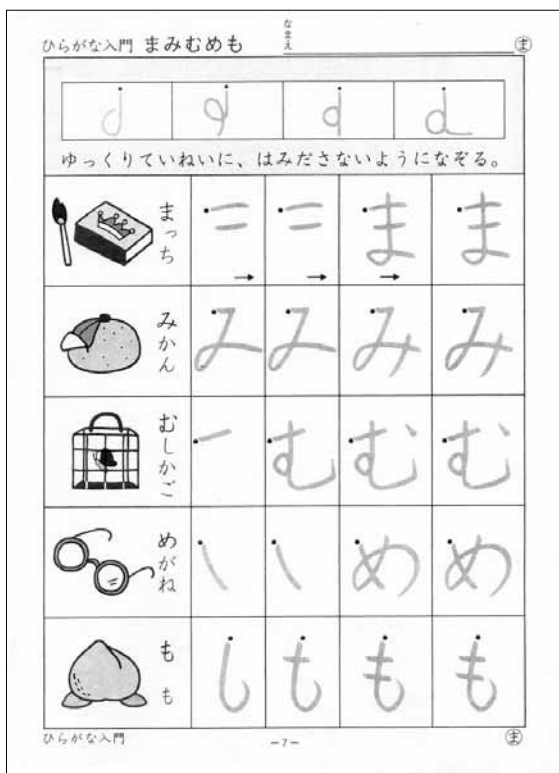
ここではその「かきかたノート」「漢字練習帳」についてご紹介します。

日本人として生まれた以上、ひらがな、カタカナ、漢字などの文字や日本語の文章についての基礎知識は正しく見につけておきたいもの。でも日本に住んでいるのだから、何も特別なことをしなくても……!? いえいえ、まともに漢字を書けない社会人、乱れた日本語を乱れと気づかず平然とあやつる若者であふれる現代、そんなに悠長なことは言っていないられません。

さあ、正しい書き順で、正しい文字を書くことから始めましょう。この「かきかた」が上達すると計算力が向上し、さらに計算力の向上は「かきかた」を上達させるという相乗効果も生まれるそうですよ。言葉の乱れ、文字の乱れは心の乱れ。ぜひ、ここでお母さんも一緒に初心にかえり、正しい日本語の文字を基礎から学んでいただきたいと思います。

【ようじの「かきかたノート」】

ひらがな 12 ページ、カタカナ 2 ページで構成された、なぞりの「かきかたノート」。なぞっているうちに字の特徴を覚え、書くことに慣れてきます。



【漢字練習帳】

ひらがなもカタカナも、ルーツをたどれば漢字。その漢字の由来については、学校で学習します。子供たちは、はるか1600年余り昔にタイムトリップし、日本の歴史、中国との関わりなど、普段考えもしない世界に足を踏み入れ、ちょっぴり視野が広がることでしょう。この知識をベースに、**漢字の基礎をかためて、応用へと発展**させていくのが「漢字練習帳」です。

漢字ワールドへ出発！

さあ、ここから楽しい漢字ワールドの旅が始まります。

まず、「一」「二」などの漢数字や「山」「川」などの簡単な漢字からスタートし、正しい書き順、読み方などを学習します。反復練習によって定着を図り、その漢字を使った例文でさらに応用力を養い、実践で使いこなせるようになることを目指します。これにより、漢字がひらがなやカタカナのような表音文字でなく、**意味を持った表意文字**であることを自然に学びます。例文の中では、漢字だけでなく、**助詞の正しい使い方**なども同時に学習するよう問題作成されており、単調な漢字の書き取りにとどまらない、**言語感覚を磨く**内容になっています。

漢字の森、漢字の広場も

また、「紙」と「神」、「切る」と「着る」などの**同音異義語**や「さるも木から（落）ちる」「（対）岸の火事」などの**ことわざ**の問題など、ちょっと違ったアングルから漢字について考えさせるといったさまざまな工夫もあり、深い漢字の森を探検します。さらに漢字を使ったゲームやクイズなどのお楽しみ広場で、子供たちは漢字のおもしろさを満喫し、漢字の成り立ちの妙に触れるでしょう。

「力だめし」のコーナーではどれだけ「読み・書き」の力がついたのか、知ることができます。もし、わからなかったら、**辞書代わりに使える漢字下敷**という強い味方が力を発揮しますから、心配御無用。解答欄についている番号と同じ番号の漢字を探せば、答えを見つけることができます。子供たちの好きな宝探しの感覚で、**自学自習の習慣**をつけることができますね。

そして、最後にちょっとだけ長い文章問題が用意されており、漢字が文の中でどのような役割を果たしているかを学びます（Cシリーズのみ）。これが締めくくりかと思ったら、大間違い。まだまだ旅は終わりません。締めくくりは、裏表紙のテストです。テストといっても怖がることはありません。「漢字練習帳」を1ページ1ページ真面目にやっていたら大丈夫。

こうして漢字ワールドの旅を終えた子は、立派なクラスの漢字博士。もう「漢字を書くのって面倒くさい」なんて言いません。

お友達も、漢字ワールドの旅に誘ってみては？

その他のテストプリント類

入塾実力テスト・文章題入塾テスト・漢字テスト

教材は、これで終わりではありません。入塾時に、「基礎学習練習帳」の進度調整をするための「入塾実力テスト」、「文章題」の進度調整をするための「文章題入塾テスト」、そして「漢字練習帳」の学習の区切りで習熟度を見るための「漢字テスト」が用意されています。このように、学習を始めるに当たって個々のレベルを正確に把握することは、学力向上を目指す上で、とても大切なことです。

Coffee Break 「若毛(！？)のいたり」

文章表現の教育に熱心なある大学で、研究者が大学生を対象に作文を添削し、漢字テストを行ったところ、以下のような誤字が見られたそうです。中には思わず吹き出してしまいそうになるものもあるけれど、笑ってばかりはられません。

【誤】 手張 不難 事状 若毛のいたり 消味期限 経油 人生感

【正】 手帳 無難 事情 若気のいたり 賞味期限 経由 人生観

研究者によると「漢字力の衰えは表現力の衰え」だそうです。
ドキッとしたお母さん、辞書で確認しておきましょうね。
そして、お子さんがこのような誤字を書く大人にならないように、よきアドバイスを！！

Coffee Break 「お母さんと国語力」

小学生の子供の学習にはお母さんのバックアップが必要ですが、そのバックアップも、方法を間違えると、逆効果となります。

こんなエピソードがあります。国語力が弱いというのでお母さん同伴で、ある国語教室の門をたたいたA君。面接で先生が質問しても、答えるのはいつもお母さんでした。A君自身の日常生活や学校のことを聞いても、お母さんが横からぺらぺら口を出して、とうとうA君は話す機会を与えられませんでした。これでは国語力が弱くなるのも当然です。国語力の基礎の一つである「自分の考えを自分の言葉で表現する意欲」を、このお母さんが奪ってしまっているのですから。

両親、特に子供と密接に関わることの多いお母さんは、まず家庭でのご自身のあり方を見つめ直してみてもいいのではないでしょうか。

幼児基礎学習

早期教育と幼児基礎学習

こんな幼い子に基礎学習？ いいえ、幼い子だからこそ基礎学習なのです。幼児にとって基礎学習は、とても重要な意味があります。ただし、ここでいう幼児基礎学習とは、**0歳から4歳くらいまでに文字や数を教え込む“早期教育”とは性質を異にします。**早期教育は外界との自然な触れ合いが最も必要な乳幼児期に、能力を超えて圧力をかけるもので、子供の自然な発達のバランスを崩してしまう危険性が指摘されています。そして早期教育を受けた子は受けなかった子よりも、社会性、言語性、認知性、情緒性などにおいて、発達が遅れたという皮肉な調査結果が出ています。

そういったことも踏まえて幼児教育というものを考え、発達段階に応じて適切な指導を行う必要があるのです。新村式「基礎学習システム」における幼児基礎学習は**4歳からスタート**します。この時期は、**一生のうちで最も好奇心が旺盛で知識を吸収する力が強い時期。**ちょうど新しいスポンジが水を吸い取るように、すっと吸収してしまいます。また、乳幼児期と違って、**考える力の下地**も育ってきています。

このような特徴を持つ幼児期は、文字や数の学習の基礎を築く、またとないチャンスです。

創造力を高める教材群

ただ、飽きっぽいのも、幼児の特徴。楽しくないことには目もくれないのも幼児の特徴です。そして幼児は**遊びの中からあらゆることを学びます。**

こういった幼児の特徴に合わせ、幼児の目線に立って開発された新村式「基礎学習システム」の教材は、**創造力・集中力を高めつつ学ぶ楽しさを体で感じる学習**を可能にしました。既にご紹介した幼児用の「れんしゅうちょう」「かきかたノート」とあわせて学習してください。幼い子供にぴったりの「質」と「量」。きっとお母さんにも満足していただけると思います。

この時期に好奇心が満たされ、勉強を楽しいものとして受け止めた子供は、小学校に入ってからスムーズに授業の内容に入っていくことができるでしょう。

では、一つ一つの教材を見ていきます。

【よみかた練習帳】

「大きい・小さい」「長い・短い」などの形容と比較、色の名前、物の形態や動作など、テーマに合わせた短い文を繰り返し、声に出して読むことによって、言葉と概念の結びつきを学びます。文章問題の学習への導入教材です。

読み方練習 拗音・促音

こえを だして、2かいずつ よみましょう。

- あかい ぼすとがある ゆうびんきょく。
- しろい ばとがーにのった おまわりさん。
- はひふへほ・まみむめも・もめむみま

○ きって ばった よっと すりっぱ

★ らっぱ こっぶ らけっと ほけっと

△ ちゃわん きゅうず ほうちょう じょうろ

□ ちゅうりっぷ きゅうきゅうしゃ しょうぼうしゃ

- 8 -

読み方練習

読み方練習 異種同類

こえを だして、2かいずつ よみましょう。

- おしょうがつは、おとしだまがもらえて うれいな。
- ふゆやすみは、いえのひとと すきいじょうにいった。
- らりるれるる・ろれるりら・やゆよ・わをん

	くだものがあります。そのうち、 ももに○をかきなさい。
	こどもが3にんいます。そのうち、 おとこのこに○をかきなさい。
	いろいろなはながあります。 そのうち、あさがおは。
	やさいがあります。そのうち、 とまとはどれですか。
	まる、さんかく、しかくがあります。 そのうち、さんかくは。

- 17 -

読み方練習

【きりえノート】

まだ上手に道具を使うことができない、でもお母さんがやっていることは自分もやってみたい。そんな幼い子供の意欲に応えて、はさみとのりの使い方を学習します。はさみを使う順序、のりをつける場所などの指示があつてとても親切。集中力、創造力を高め、手先を器用にします。

No.9 でんしゃ

1. 2. 3.

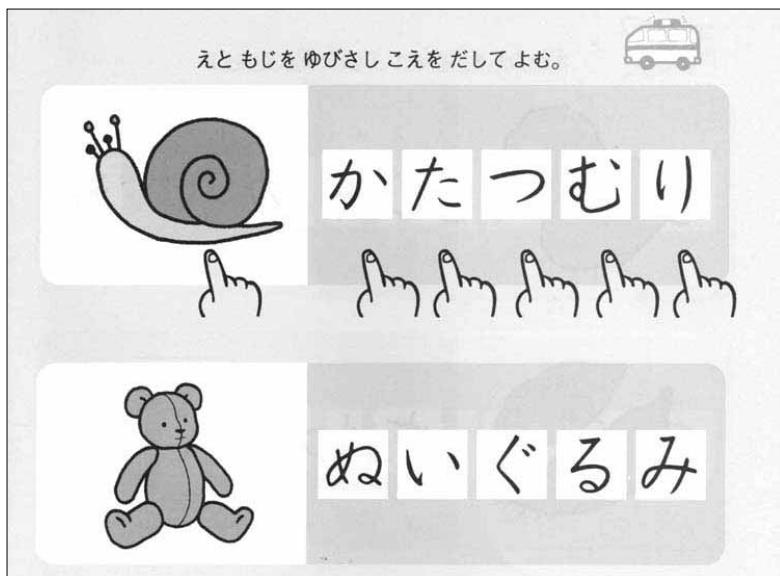
- 16 -

台紙 でんしゃ

- 16 -

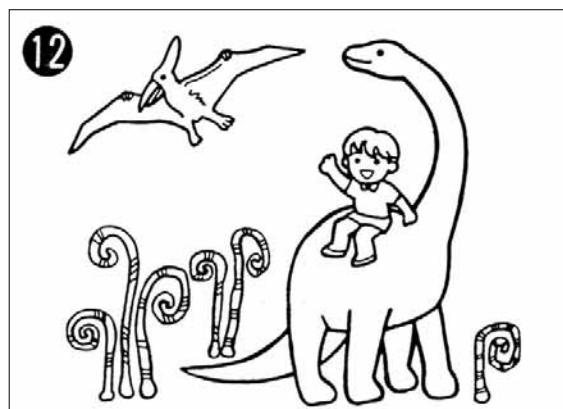
【よみかたえほん】

「き(木)」「て(手)」などの1文字の言葉からスタートし、徐々に字数の多い言葉、濁音、半濁音、拗音、促音などのある難読語へと発展していきます。それぞれ、絵を見て文字を指でさしながら声に出して読みます。



【ぬりえプリント】

たかがぬり絵。されどぬり絵です。ぬり絵の学習は集中力を養うと同時に情操面でもその効用が評価されています。線からはみ出さないように好きな色をぬっていきましょう。完成が楽しみです。



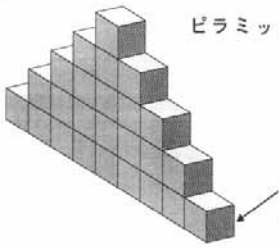
【知恵の積み木 1 2 3 / 1 . 2 . 3 つみき (つみきノート)】

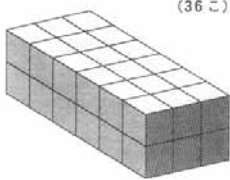
ただの積み木ではありません。その理由(わけ)はお母さんもトライしてみればわかります。頭の体操になるので、たまにはいいかも!?まず、ノートの上に積み木を並べることから始まり、徐々に難しい形を作っていきます。平面図形感覚から立体図形感覚へ。見えない部分を見る目を養います。

1.2.3 つみき 初級-16

できたしるし

ならべてみましょう。

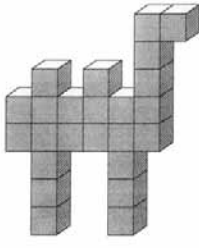
①  **ピラミッド** (25こ)
いちばん下からならべよう

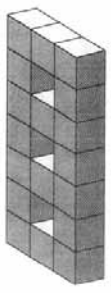
②  (36こ)

初-16

1.2.3 つみき 中級-11・12

できたしるし

中-11  **らくだ** (24こ)

中-12  **3がいでてビル** (18こ)

-6-

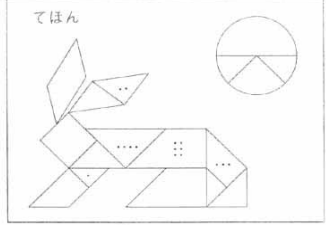
【 図形パズル / 図形パズル (パズルノート)】

パズルノートの図に合わせてパズルを置いていきます。これもレベルの高いものになると、積み木同様、大人でも骨が折れます。子供のいない所でこっそりやってみては？

図形パズル C-12

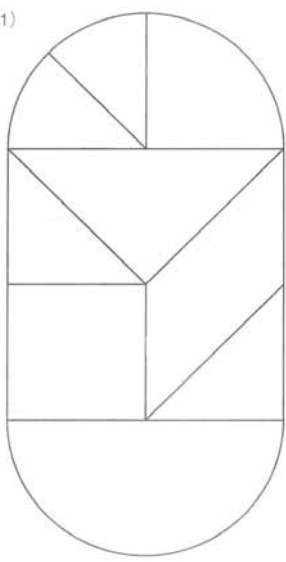
できたしるし

C-12


てほん  あまりなし

2つ いっしょに

図形パズル B-1

(1) 

うえにのせてみよう



-1-

幼児学習カリキュラム

「これならうちの子も嫌がらずにやれそうだな。それに小学校に入るときに心配しなくて済みそうだね」と、あるお父さん。「でもこれを一遍にやるのは無理よね。お教室では、どんなふうにこれをやらせてくれるのかしら？」と、お母さん。

疑問にお答えします。例えば新村塾では、次のような学習カリキュラムで、指導を行っています。

	みなおし	れんしゅうちょう	ピクチャーパズル	きりえ	ぬりえ	すずじ	1・2まつき	パズル	なまえ	かきかた	けいさんプリント	よみかたえほん	ぶんしょうだい	テスト	プリント	かずもじ
4/10																
4/13																

【注】 は学習することを表します。 がついていないものは別の日に学習します。

幼い子供たちは、勉強をさせられているという感覚で受け止めるのではなく、「今まで知らなかった。でももうわかったよ。何だか楽しい気分になっちゃった」というふうな、心地よさで満たされるでしょう。そして、楽しいことはまたやりたい、次のステップへ進みたいという**自然な欲求が学習意欲へとつながる**のです。

この幼児期にこうした学習体験をした子は、友達関係においても、あるいは運動その他においても**自ら進んで問題解決していこうという姿勢**が見られます。

これからの長い子育てに希望と不安でいっぱいのお母さん、子育ての目的は子供を自立させること。さあ、自立のための、**小さな小さな“第一歩”**です。

塾選びは慎重に

乱塾時代は低学力時代!?

街を見渡せば、あっちにもこっちにも塾、塾、塾。お母さん方が子供だった頃と比べると、塾は確実に増えています。それならば、子供の学力は全体的に向上するはずですが、実際はその逆で、**学力低下の問題は深刻化**するばかり。なぜなのでしょう。どうも指導システムに原因が隠されていそうですね。

重度のひき算病が新村塾で全快したA子ちゃんの話の前にご紹介しましたが、このA子ちゃんが転塾してくる前に通っていた塾のように、いくら勉強しても、実際には学習効果の上がらないシステムを採用している塾が多いのが現実なのです。幸いA子ちゃんの場合は、新村塾で適切な治療を受け、病気を克服し、明るい将来が見えてきましたが、自覚症状のないまま、あるいは自覚症状があっても原因を追求しないまま、闇の中をさまよっている子供たちが大勢います。私たち大人は、この実態にしっかりと目を向け、この類の病気がもうこれ以上蔓延しないよう最善の手を尽くさねばなりません。そして**真の学力向上**へと導いていく責任があります。

甘い言葉にご用心!

そこで、求められるのが「**塾選び**」のための確かな**“目”**です。どの塾を選ぼうかなと思った時、お母さんは、まず何をしますか。お友達のお母さんに聞いてみる、新聞の折込広告の中から探す、テレビのCMを見る、インターネットで検索する.....etc. とりあえず、どれも情報収集の手段としては有効です。CMや広告は、どれも趣向が凝らされ、ビジュアル的に目を引くデザインで、「つけると必ず美しくなる」化粧品よろしく「入れば必ず学力が向上する」と言わんばかりに、甘くささやきかけてきます。しかも、「入塾テストは行いませんのでお気軽にどうぞ」と安心させて攻める「ノーテスト」派、「学習内容を先取りして指導しますから、人よりも前へ進めます」と教育ママの競争心を刺激する「先取り」派など、“**プラス**”のアピールにも、余念がありません。しかし、入塾テストを行わずに、どうやって個々の学力レベルに応じた**進度調整**をするというのでしょうか。また、基礎をしっかりとためずに先へ先へと進んでしまっ、その先に果たして**学力向上**はあるのでしょうか。

塾選びの決め手は?

「我が子に基礎学力をつけさせたい」ということを真剣に考えた場合、甘い宣伝文句は、塾の質を見極める決め手にはなり得ません。一人一人の子供の**学力レベル**を細かく分析した上で、**単なるテクニックではない、真の学力を身につけてくれる塾** これこそが、**低学力時代に求められる塾**と言えるのではないのでしょうか。ですから塾選びは慎重に行わなければなりません。最近、塾から塾へと転々と渡り歩く「**渡り鳥症候群**」の子供が増えていくとか。いい塾ばかりであれば、そんな現象は起きないでしょう。

親から子への“贈り物”

「この塾のこの教材に出会えて本当によかった」新村塾では子供たちが心からそう思える学習システムを提供しています。

お母さん、ぜひ手作りの温かさが感じられるこれらの教材に触れてみてください。
いい塾のいい教材 親から子への、生涯の宝となる“贈り物”です。

Coffee Break 「かわいい子には」

「父母やはらかにして、子を愛し過ごせば、子おこたりて、父母をあなどり、つつしまずして、行儀悪しく、きずい（氣随）にして身の行ひ悪しく、道にそむく。...（中略）...子の賢不肖、多くは父母のしはざなり、父母いるがせにして、子の悪しきをゆるせば、悪を長ぜしめ、不義にをちいる。これ子を愛するに非ずして、かへりて、子をそこなうなり。」

【現代語訳】

「父母が子供に厳しくしないでかわいがり過ぎると、子供は怠けて父母を侮り、慎みを忘れ、行儀が悪くなり、わがままになって品行も悪くなり道理をわきまえなくなる。...（中略）...子供が賢いか愚かかはほとんど父母次第である。父母が投げやりになって、子供の悪いところを放っておくと、ますます増長させて道にはずれてしまう。これは子供を愛しているのではなくて、かえって子供をだめにしてしまっているということである。」

これは江戸時代の、儒学者であり教育家でもある貝原益軒の著した「和俗童子訓」巻之二の中の一節です。「和俗童子訓」は我が国最初のまとまった教育論書であり、その教育観、児童観は近世教育のいしずえとなり、明治以降の近代社会の国民教育とも深いところでつながっています。難しい話はさておいて、要するに「子供を愛しているのなら、厳しくしなさい」ということですね。中学か高校の時に習った“Spare the rod and spoil the child.（かわいい子には旅をさせよ）”という英文を思い出しませんか？

このテーマは古今東西、変わらぬ普遍の真理なんですね。お宅ではどうでしょうか？

Coffee Break 「本当の財産」

NHK教育テレビ「マテマティカ」でおなじみのピーター・フランクル氏は、数学者でありジャグラーでもある、とても多才でユニークな人です。皆さんもご存知ですよ。その彼の趣味は、さて何でしょう。映画かな？ 音楽かな？ いいえ、驚くなかれ。“勉強”なんだそうです。

ハンガリーで生まれ育った彼はユダヤ人。当然彼の両親もおじいちゃんもおばあちゃんもユダヤ人です。ユダヤ人がどんな悲しい運命をたどったのか知らない人はいないと思います。時は第二次世界大戦の真っ只中。ユダヤ人というだけで強制収容所に入れられ殺されたおじいちゃん、おばあちゃん。住んでいた家をまるごと焼かれたお父さん。家族全員を殺されて一人ぼっちになったお母さん。彼らは家もお金も持っている物もすべて一瞬にして失ってしまったのです。それでもお父さんはその後一生懸命勉強して医師になり、同じく一生懸命勉強して医師になったお母さんと結婚しました。そして生まれたピーターに、いつも話して聞かせたそうです。「頭と心の中にあるものだけが、あなたの本当の財産です」と。

この、戦争から得た教訓は、戦争を知らないピーターの心の中に深く浸透し、生きていく上で大きな影響を与えたのだそうです。

頭と心の中に刻みつけたもの　これは誰にも奪うことのできないすばらしい財産です。どうですか？ “勉強”に対する見方が変わってきたでしょう？